

第3回令和7年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会会議録

令和6年7月18日（木）13時00分～

委員長 皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、また本当にお暑い中
ご出席いただきまして、ありがとうございます。

会議の開会に先立ちまして、傍聴の皆様方にお願いがござい
ます。お手元の傍聴要領をご覧ください。「藤沢市教科用図書採
択審議委員会の傍聴要領」に従いまして傍聴いただきますよう
お願いいたします。

なお、この会議は公開でございます。審議の内容につきまし
ては、会議録作成の都合上、録音をさせていただきますので、
ご承知おきください。

では、ただいまより第3回令和7年度使用藤沢市教科用図書
採択審議委員会を開催いたします。よろしくお願いたします。

では、本日の次第をご覧ください。今回、ご審議いただく内
容につきましては、議題1「令和7年度使用特別支援学校及び
小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」
と議題2「令和7年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果
の答申について」の2点でございます。

まず初めに、藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱に基
づき、会議録署名委員を指名いたします。委員長の私のほかに、
今回も佐々木委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでし
ょうか。

佐々木委員 承知しました。

委員長 ありがとうございます。では、佐々木委員、よろしくお願
いたします。

それでは、審議の前に第2回令和7年度使用藤沢市教科用図
書採択審議委員会にて配付された資料について、事務局より訂

正の申入れがありましたので、説明をお願いいたします。

事務局

前回の資料の訂正についてご説明いたします。

お手元の「中学校用（令和7・8・9・10年度用）『調査資料』」の目次をご覧ください。目次の一番下の欄に、注釈にて「各教科書及び編修趣意書に基づいて表記しています」及び「QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です」の文言を、さらに「令和7年度使用中学校用教科用図書調査書まとめ」についても、「QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です」の文言を加筆させていただいております。よろしく願いいたします。

委員長

ただいま前回資料についての説明がありました。委員の皆様、いかがでしょうか。大丈夫ですか。ありがとうございます。

それでは、引き続き、事務局より本日の資料等についての説明をお願いいたします。

事務局

今回ご審議いただく教科用図書は、学校教育法附則第9条に規定された教科用図書です。特別支援教育に関する教科書については、児童生徒の実態に合った一般図書を充ててもよいとされているものでございます。

5月9日から10日及び5月13日から15日までの計5日間、県立総合教育センターにて展示会が開催され、白浜養護学校と市内小中学校、特別支援学級の教員が、展示されている図書を見ながら、在籍する児童生徒の実態や次年度入学する児童生徒を想定して調査研究を行い、その結果について、該当学校から教科用図書調査書が提出されております。

それでは、資料の説明をいたします。

まず、横に置いてあるサイドテーブル及び書棚のほうをご覧ください。そちらには、令和7年度使用特別支援学校及び特別

支援学級用教科用図書調査書と特別支援教育関係教科用図書見本の一部が展示してあります。令和7年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書は、特別支援学級設置学校長及び特別支援学校長が自校の教師に調査研究させたものを簿冊としたものです。

次に、「令和7年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書まとめ」です。これは、令和7年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書を基に事務局でまとめたものです。

1 ページをお開きください。この一覧表は、附則第9条による図書を4つに分けて表記してあります。

一覧表の右上のところをご覧ください。まず1つ目は「新」の文字を記載したもので、これは、今回調査研究した結果、新たに教科用図書としてふさわしいとして提出された新規図書でございます。

2つ目は「□」の記号を記載したもので、これは、昨年度採択された図書で、本年度の調査研究の結果、複数の種目において教科用図書としてふさわしいとされた図書でございます。

3つ目は「●」の記号を記載したもので、これは、昨年度採択された図書で、令和7年度に発行者による供給が困難となった図書でございます。

最後、4つ目は無印のもので、これは、昨年度採択され、本年度も教科用図書としてふさわしいと調査された図書でございます。

なお、資料1として、24ページから36ページに新規図書と複数種目で希望のあった図書等を一覧表にしてお示ししてございます。この資料には、児童生徒一人ひとりの特性や発達段階を踏まえた上で各学校が一人ひとりに適した教科用図書として選定した理由を記載してございます。

続きまして、22ページをご覧ください。一覧表の最後、No.10、道徳の欄の下になりますが、ただいま説明をいたしましたもののほかに、一般図書として、点字教科書、拡大教科書がございます。また、令和7年度使用小学校用教科用図書、令和7年度使用中学校用教科用図書、特別支援学校小・中学部用文部科学省著作教科書も採択可能な教科用図書として記載してございます。

なお、特別支援学校小・中学部用文部科学省著作教科書につきましては、資料2として、37ページから40ページにお示ししてございます。これは、第1回の審議委員会で資料として「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録（令和7年度使用）」をお渡しいたしました。この中で聴覚障害者用として言語指導の図書と知的障害者用として挙げられております星印本と呼ばれる図書でございます。

それから、一般図書を採択希望する場合の留意事項につきまして、41ページに資料3として記載させていただきました。

以上で資料の説明を終わります。

委員長 資料のご説明、ありがとうございました。

なお、令和7年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書につきましては、個人情報などの問題がございますので、非公開とさせていただきたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 ありがとうございます。

では、それ以外に資料等について、何かご質問はございますか。大丈夫でしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、ないようですので審議に入りたいと思います。

 新規の図書につきましては、本審議委員会が初めて審議する場になっておりますので、ぜひ慎重な審議をお願いしたいと考えます。どうぞよろしく願いいたします。

 それでは、これから審議してまいりたいと思いますが、審議の進行について何かご意見はございますでしょうか。

澤野委員 今年度も、各学校から障害の特性や発達段階など、児童生徒の実態に応じて選定された一般図書がたくさん出されています。特別支援学校や特別支援学級に在籍する子どもたちにとってふさわしい教科書として、附則第9条によって教科書として使用できる一般図書をできる限り数多く用意することが必要だと考えます。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見のある方はいらっしゃいますか。

藤内委員 私も澤野委員と同じ考えです。今回、各学校で調査研究をした結果、教科書にふさわしいものとして、新規図書や複数の種目で使いたいという一般図書が多く出されています。本校の調査の様子を見ましても、児童一人ひとりの実態を踏まえて選定しておりました。採択の幅を広げるためにも、今までに教科用図書として採択してきた一般図書は引き続き採択し、今年度、新規の図書として出された一般図書について審議する方向がよいと思います。

委員長 ありがとうございます。ほかに何かございますか。

繁里委員　私も同じように考えます。この調査書まとめに示されている複数の種目で申請のある「□」の印の図書や、今年度新たに希望が出ている「新」並びに「新□」の図書について審議していくのがよいのではないのでしょうか。

委員長　今、そういうご意見が出ましたが、皆様いかがでしょうか。よろしいですか。

各委員　はい。

委員長　では、そのように審議を進めてまいりたいと思います。

調査書まとめの印で申し上げますと、「新」と書かれた新規図書、そして「□」の印がついている複数種目で希望がある図書についてご意見を伺いたいと思います。新規図書や複数種目で希望がある図書につきましては、No. 1の国語・書写からNo. 10、道徳までの種目に合計100冊入っております。

審議につきましては、学校からの調査書には、どんな特性のある児童にどんな教科書がふさわしいかという点が挙げられていることから、子どもたちの実態、特性という視点からご意見を伺いたいと思います。

審議の都合上、初めに、No. 1の国語・書写とNo. 2の算数・数学、次に、No. 3の生活・地図・社会からNo. 6の図工・美術、最後に、No. 7の家庭・職業家庭からNo. 10の道徳という3つに区切って審議を進めたいと思います。図書によっては複数の種目にまたがるものもございますが、その際には、いずれのところかでご発言いただくようお願いいたします。

それでは、No. 1の国語・書写とNo. 2の算数・数学の教科領域で申請が上がっている33冊の図書につきましてご意見を伺いたいと思います。なお、発言する際には、冒頭に種目、番号、図書名を述べた上でご意見をいただくようお願い申し上げます。

す。

では、ご意見がある方は挙手をお願いいたします。

梶委員

私は、No. 1 の国語・書写の教科領域の中から、4冊について意見を述べさせていただきます。

まず1番、「かこさとし・おはなしのえほん（7）からすのパンやさん」は、リズムカルな言葉の世界にカラスのパン屋に集まる多様で個性あふれるカラスたちが描かれた大変楽しい絵本です。子どもたちは、パン作りにお店屋さんごっこなどの空想遊びを楽しみながら、たくさんの片仮名言語の定着を図ることができます。作者は多作で、本市在住であったかこさんです。

次に、9番の「くろくまくんのことばえほんなまえのことば」は、子どもたちにとって身近な生活素材がイラストとともに165掲載されており、子どもたちは主人公のくろくまくんに同化して、楽しく絵探ししながら、言葉の意味や使い方に親しみ、自然と語彙を増やすことができます。

3冊目、10番の「すきなことにながてなこと」は、多様な人々が互いに認め合って、よりよく幸せに生きることをイメージさせる絵本です。自分の得意なところは自分を生かし、苦手なところは他者に助けてもらう主人公の心の言葉は、様々な個性のある子どもたちの自己表現力にもつながっていくと思いました。

最後に、24番、子供図書館の「うれしいさんかなしいさん」です。前から、後ろから、どちらから読んでも、うれしいさん、かなしいさんの繰り返しで、子どもたちが飽きることなくラストまで楽しく読めるアイデアの絵本でした。このアイデアをまねして同じように子どもたちがお話をつくるなどすれば、豊かな感情や想像力を養う創作活動になると思います。

私からは以上です。

委員長 ほかにご意見がある方はお願いいたします。

越委員 私も、今、同じようにはありました24番の子供図書館さんの「うれしいさんかなしいさん」が目にとまりました。前から読んでも後ろから読んでも真ん中で出会い、明るく元気なうれしいさんにしてくれる絵本でした。ちょっとした気持ちの変化やささいなことがきっかけで心が一喜一憂する子どもたち、そんな自分たちの気持ちを分かる、分かると客観的に感じられる本だなというふうに思いました。また、かなしいさんだった気持ちが、ちょっとしたきっかけでうれしいさんになれるんだと気づかせてくれるところがあります。そして、かなしいさんになったときに、次はどんないいことが起きて、うれしいさんになれるんだらうというわくわく感があり、プラス思考となるためのよいきっかけを与えてくれる本だなというふうに思いました。

 もう一つ、19番のナツメ社の「特別支援教育をサポートする読み書きにつまづく子への国語教材集」は、そのまま教材が本紙と附属のCD-ROMと合わせて409の教材が入っていました。そのため、多様な児童や生徒に対応できる本だなというふうに思いました。音読の操作や語彙、促音、文章読解、物事の説明や時間、漢字から作文まで学習の基礎となる11の能力を身につけることを目的とした教材となっておりました。特に物事の説明では、段階を踏んで周囲とのコミュニケーションを豊かにするために、身近な物事について言葉で説明できるようにしたりと、社会性を身につけられるところが大変よいなというふうに思いました。

 以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかに意見はございますでしょうか。

大石委員　　私は国語・書写のナンバー15「チャイルドブックこども百科にほんごだいすきことばの図鑑」、それからナンバー17「ことばじてん絵本」について意見を述べたいと思います。

どちらの本もイラストとともにたくさんの言葉が表示されているので、文字だけでなく絵を頼りに理解する子どもたちの語彙力向上の助けになると思います。

特に「にほんごだいすきことばの図鑑」についてですけれども、1つ目のテーマ、「おもしろことば」では、状況を表す分かりやすいイラストとともに、実生活で触れておきたい言葉や表現がたくさん掲載されているところが優れていると感じました。また、「ことばであそぼう」のテーマでは、クイズ形式で学習を進めるようになっており、楽しみながら学べるとともに、クイズを読み解きながら、読解力や連想力を高める工夫がなされていると感じました。さらに、子どもに音読させるのにふさわしいお話や読み物の題材も多数掲載されている点も優れていると感じました。

委員長　　ありがとうございます。ほかにご意見がある方は。

宮崎委員　　国語・書写のナンバー18「くらしに役立つソーシャルスキル」について、ソーシャルスキルを学びながら国語の学習効果を上げることが期待できると思います。例えば第1章では、自己紹介文を書く、分かりやすく伝えるなどを通じて正しい文章をつくることを、第2章では、お願いの仕方や誘い方、断り方などの具体的な場面を想定して、活動しながら国語的な言い回し、表現、語彙を学ぶことができると思います。

また、同じように国語・書写のナンバー19「特別支援教育をサポートする読み書きにつまづく子への国語教材集」ですが、先ほどの越委員の発言にもありましたように、巻頭の解説が大変すばらしいと思います。読み書きの課題はどのようなものか、

その背景、支援の進め方や身につけたい能力などについて分かりやすく解説されています。内容についても、サイコロゲーム、なぞなぞ、パズル、スリーヒントクイズなど、スモールステップで工夫されていて、国語の語彙力や読解力、説明する力を身につけやすだけでなく、集中して学習に取り組むことが苦手な子どもたちにも、楽しみながら学習に取り組むことができると思いました。

続きまして、国語・書写のナンバー21「特別支援教育のためのことばの学習」は、絵日記を使っての学習を繰り返すことで、子どもが毎日体験していることから言葉の力を育て、語彙力、読み書きの力、表現力を伸ばすことができると思いました。加えて、日常生活の場面に目を向けることで、基本的な生活習慣も確立させることにつながる効果が期待できると思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかご意見ございますでしょうか。

藤内委員 私は、国語・図書の16「わくわく音あそびえほん新装版にほんご★えいごおしゃべりタブレットえほん」についてお話しさせていただきます。

この本は、あいうえお順のボタンを押して平仮名の音が確かめられるだけではなくて、設定を文字モードから言葉モードにすることができるようになっており、一つ一つの文字が分かるようになるだけでなく、「あ」のボタンを押すと「あり」と音が出るようになっているなど、ばらばらの文字と言葉とのつながりを自然と身につけることができるようになっています。クイズなども充実しており、バリエーションも豊富なため、何度も使って楽しみながら学習できると感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかご意見ございますでしょうか。

岡村委員 No. 1、国語・書写の中から、4冊についてお話をさせていただきます。

まず、2番の学研「学研の幼児ワーク3～4歳かいてけせるひらがな新装版」です。この本は平仮名全文字を書いて消せる仕様になっているので、ペンを持つ練習や書くことを伸ばしていく練習、苦手な文字を練習することを繰り返し何度も練習できる教材になっていて、大きくて書きやすく、書き順も書いてあり、同じページには書いた平仮名が日常のどんなものに使用されているか、イラストも表示されているので分かりやすく、それぞれのペースで取り組むことができると感じました。

次に、9番のくもん出版の「くろくまくんのことばえほんなまえのことば」についてですが、かわいいキャラクターと優しい柔らかいイラストが分かりやすく、見やすいと思いました。家の中の物、外の物の日常の身近な名詞が載っていて、言葉の意味を絵を見ながら視覚的に理解しやすいと思いました。身近な生活にあるものを「これは何？」と周りの大人とコミュニケーションを取りながら学習できるのもいいなと感じました。

次に、11番のこばと「初級編ステップアップマッチングⅠ」と12番の「マッチングⅡ」についてですが、言葉、文字、数、数字の習得につながる工夫がされていて、いろいろなマッチングの問題があるので、色や形や物の認識の向上や、鉛筆を持って書くこと、シール貼りでは、手や指先を使う作業にもつながり、いいなと感じました。ⅠからⅡには順番にステップアップしていき、1ページずつの問題数が多過ぎないので、自主的に取り組める子どもも、大人と一緒に取り組む子どもも、無理なく集中して学習できる教材だと思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかご意見のある方はお願いします。
ます。

大石委員 同じく国語・書写のナンバー5「ぶんカード1集」、それから、
ナンバー6「ゆびなぞりカードひらがな」、ナンバー7「反対こ
とばカード」の3つについて意見を述べさせていただきます。

3種類のカードとも、目を引く大きなイラストで子どもに興味を持たせながらカードを使って分かりやすく学習できると思
いました。

「ぶんカード1集」では、2語文を使って適切な助詞の学習
ができ、文章の組立ての基本を身につけることができると考え
ます。また、「反対ことばカード」においては、カードの表と裏
に反対言葉が載っていることで言葉を関連づけて学習すること
ができ、言語能力の向上が期待できます。どちらについても、
表現する素地を身につけられることから、読解力を高めること
に有効であると考えます。さらに、英語の表現も併記されてお
りまして、英語への関心を持たせるとともに、もっと知ろうと
いう知識欲も刺激できるような工夫もされていると思いまし
た。

「ゆびなぞりカードひらがな」は、カードに記載された文字
の線がくぼんでおりまして、それを指でなぞることで指先に刺
激を与え、知覚に訴えながら学習することができるので、学習
効果が高いと考えます。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかございますでしょうか。

小澤委員 私は、三省堂から出ている「こどもぼうさい・あんぜん絵じ

てん」についてお話をさせていただきます。この本は3つの種目から出ていますので、それぞれちょっとお話をさせていただきます。

国語・書写の種目で14番になっていますが、生徒が読みたいという気持ちに応えられるように、本文を全て平仮名、もしくは片仮名で表記していました。

それから、社会の種目としては、自然災害や交通事故、犯罪などを取り上げて、身の回りの危険に対して自分の身を守る力を身につけられるように、平易なまた簡単な文章で説明されているなと感じました。

さらに、道徳の種目については、「おうだんほどのわたりかた」や「こうえんでたのしくあそぶには」など、日常の中で遭遇する出来事、事柄について具体的な題材を設定して、周りの人への気配りや公共心が養われるように工夫されているなと思いました。

それから、改めて国語・書写、あと算数・数学で、ちょっとタイトルは似ているんですけども、挙がっている2つの本、ワークドリルについてお話をさせていただこうと思います。

学研から出ている国語・書写の3番「学研の頭脳開発でんしゃのひらがなれんしゅうちょう改訂新版」と算数・数学の種目の2番「学研の頭脳開発でんしゃのかず・とけいれんしゅうちょう」の2冊についてです。

「学研の頭脳開発でんしゃのひらがなれんしゅうちょう改訂新版」については、平仮名、清音ですね。濁音じゃなくて清音46文字に対応していること、それから、実際の電車の名前や言葉を覚えながら、楽しく平仮名の書き方を学習することができるようになっていきます。なじみのある電車を題材に取り入れて、子どもたちが意欲的に取り組むことができるように工夫されていました。

それから、算数・数学の領域のほうの「学研の頭脳開発でん

しゃのかず・とけいれんしゅうちょう」についても、「電車を数えよう」とか「10両は4両と何両？」という発問だったり、「発車時刻の時計はどれかな？」など、電車をテーマにした数字や足し算、時計の問題を設定していて、電車の絵や写真を掲載して、視覚的にも捉えやすくなっているなどと思いました。

以上です。

委員長 ほかにございますでしょうか。

平林委員 先ほど岡村委員からご指摘があった国語・書写領域の11番と12番「初級編ステップアップマッチング」について述べさせていただきます。

岡村委員ご指摘のとおり、弁別能力や目と手の協応、集中力、指の機能の向上を促すように構成されていると思います。また、課題を通して、数字、文字、形、天気や動物などを学ぶことができます。絵や図も豊富にあって、視覚的に分かりやすく、シールなど子どもに魅力的な課題もあって、集中が続かない児童生徒にも取り組みやすく配慮されていると思います。また、1枚の問題数がそれほど多くないので、学習に意欲的に取り組みやすくなっていると思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかございますでしょうか。

繁里委員 私は国語・書写、13番「上級編レベルアップ対人関係スキルアップトレーニングシート」について意見を述べたいと思います。

先ほど岡村委員と平林委員から説明のあった初級編から上級編になったことで、かなりレベルは上がっていますが、主体が誰かによって言葉の使い方が変わるトレーニングや、相手にか

ける言葉の選び方、想定していない事態への対応など、対人関係で起き得る場面が多岐にわたって掲載されており、内容が充実していると感じました。

国語・書写、生活・地図・社会、道徳と複数の教科で挙げられていますが、言葉の正しい使い方やコミュニケーションの向上は、今後も子どもたちが社会の中で生きていく上で大切なことなので、いずれの教科であっても、機会を捉えて学んでいく必要があると思いました。

以上です。

委員長 ほかにございますでしょうか。

柴山委員 私は、No. 1、国語・書写の15「チャイルドブックこども百科にほんごだいすきことばの図鑑」を述べさせていただきます。

大石委員もおっしゃりましたが、イラストがとても豊富で、絵のタッチも様々描かれており、絵を見ているだけでもとても楽しく、「おもしろことば」、「ことばであそぼう」、「もっと知りたいことば」、「声に出して読もう」の4つのテーマ別に掲載されており、言葉で遊びながら覚えることができ、自然に身につくことができるのではないかと思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかございますでしょうか。

山田委員 国語・書写のナンバー2「幼児ワーク3～4歳かいてけせるひらがな新装版」について述べさせていただきます。この本は、岡村委員からもご指摘ございましたように、クレヨンやホワイトボード用マーカーペンで何度でも繰り返し平仮名の練習ができ、静音、濁音、半濁音を繰り返し練習することで、平仮名全文字を習得できます。イラストの線をなぞる指示もあり、飽き

ずに繰り返し学習できると感じました。

次に、ナンバー4の「1日10分10歳までに身につけたい言葉力1100」について述べさせていただきます。この本は、小学校で学ぶ日常的に使う言葉を3つのジャンルに分類して、1日10分程度、1年間を通して学習することで1,100語を身につけることができます。穴埋めの簡単問題やコラムの解説などで興味関心を持って、集中して学習できる作りになっていると感じました。

次に、ナンバー22の「なぞらずにうまくなる子どものひらがな練習帳」について述べさせていただきます。この本は、どんな子でも無理なく身につく3ステップ方式で、一つ一つの平仮名について、鉛筆の動かし方を楽しさいっぱいのイラストで学べる工夫がされています。簡単な文字から、なぞらず、写す方法で、飽きずに、つまずかずに、主体的に学習に取り組めると感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見ございますでしょうか。

山下委員 私も、国語・書写のところから、3冊、お話しさせていただきますと思います。

まず、8番、くもん出版の「小学ドリル国語6年生の漢字」なんですけど、こちらは、表のページでは、お手本を見ながら、まず目の空欄に漢字を書きます。そして裏ページでは、同じ漢字をまず目なしで書くという学習を繰り返し行うことで、漢字の正しい読み書き、また、バランスよく字を書くことに留意するということが期待できるかと思っています。さらに、部首や似ている漢字をグループ分けして練習することで、似ている点、また違いにも気づきやすいと思われれます。

次に、23番、清風堂書店の「国語習熟プリント小学4年生

大判サイズ」なのですが、こちらは文章を大変短い段落で短く区切りまして、簡単な質問に次々と答えていくことで、文章を正しく読み込み、内容を理解できるような工夫がされています。字のフォントが読みやすく、また行間が適切に取られているので、識字に困難を抱えていても読みやすく、また理解しやすいのではないかと思います。

最後に、続いてなんですけれども、25番のブティック社「○△□のおえかきちょう」なんですけれども、こちらは図工の教科用図書としても選定されています。「○△□」という簡単なパーツを組み合わせて、車やチョウチョなど図形をつくったり、表情を描くことで気持ちを表すこともできる、そういう教材になっています。また、その図形を描く際には、それぞれの場面設定があり、ゴールが明確となっています。例えば、たくさんのビルを建てているんだ、大ききの違うビルを描いてほしいなという問いに基づいて、子どもたちは担任とやり取りをしながら、たくさんのビルを「○△□」を使って描き、想像力と創造力、イメージーションの想像力とクリエーションの創造力を働かせて、形をつくることができるのではないかと思います。この図書は図工としてもすばらしいのですけれども、書写として、「○△□」をお手本を参考にしながら描いたり、線を引くことで形をつくったり、また、太さに注意をしたり、左右のバランスを取っていくことも、集中力、また意欲を高めるのではないかと思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかございますでしょうか。

岡村委員 ナンバー2の算数・数学の中から、2冊についてお話しをさせていただきます。

まず、2番の学研「学研の頭脳開発でんしゃのかず・とけい

れんしゅうちょう」についてですが、数、足し算、時計を電車をテーマにした問題でつくられていて、数字に対して分かりやすく、電車のイラストや写真を見て興味を持ちやすい内容で学習できるのではないかと思います。

次に、4番のさえら「とことんやさしい算数使いかたナビ2くらしに使おう！時間と単位」についてですが、身の回りにある算数を写真を使って紹介されていて、時間の読み方や広さ、かさ、重さについて身近な事例を使っているので分かりやすく、ほかにも身近なものに置き換えて考えたりでき、広がって学べる教材だと思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見ある方。

繁里委員 私は算数・数学の4つのワーク、ドリルについて意見を述べます。

1つ目は、1番「学研の幼児ワーク3歳かず」についてです。サイズがA4のため、イラストが大きく、ゆとりを持って配置されており、大変見やすいと感じました。数と数字の対応、数の大小比較、数の数列などの数量関係を、シールを貼ったり、色塗りをしながら感覚を磨いていくことができるので、生徒が楽しみながら学び進められると思いました。

2つ目は、3番の「初級編ステップアップさんすうI」についてです。イラストと言葉を使ってからの計算から、徐々に数字による計算に移行していくことで、生徒が無理なく加法、減法を学んでいけると考えます。最後のページには文章題が配置されており、計算が実生活に生かされやすくなると思いました。白い紙に黒一色で書かれているので、問題に集中して取り組めると感じました。

3つ目は、7番「七田式・知力ドリル3・4さいかずをおぼ

えよう」についてです。イラストと数字を使いながら、数と数字、数の順列、数の増減、数の分解などを繰り返し学ぶことで、生徒に数の概念が身についていく作りになっています。また、各ページの問題数が多くないので、じっくりと考えながら取り組むことができます。

最後に、8番「影山ドリル初級算数小学校5年生」についてです。各単元で学ぶ内容の解き方について、短くて分かりやすい解説がついていました。また、なぞり書きで計算の仕方などを確かめてから問題を解き進められるように工夫されていることで、生徒は安心して問題に取り組むことができるだけでなく、自分自身で解こうという意欲につながると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかございますか。

楯委員 先ほど岡村委員からもありましたけれども、私も算数・数学の4番、生活・理科の7番で挙げられている「とことんやさしい算数使いかたナビ2くらしに使おう！時間と単位」について申し上げたいと思います。

こちらは「パスタをゆでるには何分？」などの生活の身の回りにある算数が写真を使って絵本のように紹介されており、子どもたちが時間や単位について、自分の生活の中で身近に、具体的に感じるすることができます。生活や理科、算数の観点からも、日常生活に必要な時間や単位の基本的な知識を身につけることができ、さらに、「校庭の面積はダイニングテーブル幾つ分になるか」など、計算の難易度が上がる課題の吹き出しも設定されており、児童生徒の発達段階に応じて、個別最適な課題についての設定の工夫があることを感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかございますか。

窪島委員 自分は、ナンバー5「かずとすうじのでんしゃじてん」、それから、ナンバー6「絵で見てわかる単位とはかりかた」についてお話しさせていただきたいと思います。

まず、「かずとすうじのでんしゃじてん」ですが、電車が好きな子にとっては、好きな電車を使いながら勉強ができるので、たまらないだろうなと思いました。どの電車が日本のどこを走っているのかという全国路線地図もあるので、地理の学習にもつながるかなというふうにも思います。数字をなぞったり、クイズをしたり、あるいは見つけたり、これは楽しみながら学習ができるんだらうなというふうに思いました。

次に、ナンバー6の「絵で見てわかる単位とはかりかた」ですけれども、これは様々な単位が載っている本でもあるので、使う子どもの学年に合わせて上手に使ってほしいなとは思いますが、でも全ページにわたって答えをめくる仕掛けが合計150か所もあるので、子どもたちにとっては、とっても興味を引きやすい作りであるなというふうに感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかご意見のある方はいらっしゃいますか。よろしいでしょうか。

各委員 はい。

委員長 進めさせていただきたいと思います。

続きまして、No.3の生活・地図・社会から、少し飛びますが、No.6、図工・美術までの教科領域で申請が上がっている38冊の図書についてご意見をお伺いしたいと思います。この中には、ほかの種目でも希望が上がっている図書がありますので、

それも含めてご意見を伺いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

では、ご意見がある方は挙手をお願いいたします。

柴山委員 No. 3、生活・地図・社会の2「社会科常識シリーズNew日本列島ジグソー」について述べさせていただきます。

パズルで遊び感覚で繰り返しでき、自然に位置や形を覚えることができるところ、また情報量の多さが、こちらは最新鉄道路線や各地の特産物、世界遺産など、本当に情報量が多く、また、子どもたちがどこに興味を持つかというのは様々だと思うので、どこから興味を持つかは本当に子ども次第だと思うんですが、その部分がどこから入ってくるかというところのいろんな視点で子どもたちは学べるんじゃないかなと思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかご意見のある方はお願いいたします。

梶委員 私は、生活・地図・社会の10番と国語・書写の20番、体育・保健体育の4番にまたがって挙げられている「チューくんといっしょせいかつのおはなし」についてお話しさせていただきます。

この絵本は、おはようからおやすみまで、家族のやり取りが親しみやすいチューくん家族の姿で描かれており、基本的な生活習慣、身辺自立の具体が子どもたちに大変分かりやすくなっています。生活や社会、保健体育の観点からは、身につけたい生活、健康習慣や社会生活のマナーの習得など、国語の観点からは、平仮名の理解や語彙の習得など、各教科の観点から読んでも、子どもたちの生きる力を育成するための要素が多く盛り込まれている絵本であると思いました。

以上です。

委員長 そのほかご意見のある方はお願いします。

山田委員 生活・地図・社会のナンバー3「なぜ僕らは働くのか」について述べさせていただきます。

この本は、働く上で考えるべき様々なテーマを漫画と図解で多角的に伝えています。内容はやや難しいのですが、自分の将来や職業に不安を感じる小学校高学年や中学生が希望や意欲を持って働くことについて考える機会を与えてくれるよい図書だと感じました。

以上です。

委員長 ほかにご意見のある方はお願いします。

山下委員 ただいま山田委員から、働くことについてお話がありましたが、私も生活・地図・社会の13番「発達障害の子どもたちのためのお仕事図鑑」についてお話をしたいと思います。

こちらは、個人の適性を踏まえながら、どんな仕事があるのか、様々な仕事の内容や1日の流れを把握することができる本でした。子どもたちがその職業をできるかどうかというよりも、やってみたいという思いが持てるように、担任とやり取りしながら、下地づくりをすることができる絵本だと思いました。また、当事者インタビューとして、自閉スペクトラム症の診断を受けた方が、現在、言語聴覚士として活躍されている姿などがあり、生徒が将来の自分の姿を想像しながら読むことができるのではないかなと思いました。

また、12番なんですが、JTBから出ている「るるぶ地図でよくわかる都道府県大百科」についてもお話しさせていただきます。

日本地図や都道府県の特徴が、見どころ、特産品、グルメなど豊富に紹介されております。クイズが基本3択で掲載されておりまして、児童生徒が社会に興味を持ち、担任やクラスメイトとクイズを出し合ったりしながら、楽しく学習ができるのではないかなと思われました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかございますか。

宮崎委員 私は国土社の「ルールとマナーを学ぶ子ども生活図鑑」のシリーズ2冊について述べさせていただきます。

まず、「子ども生活図鑑」の家庭生活編は、道徳のほうで申請が挙がっています。こちらは、トイレに行くですとか風呂に入る、お箸と茶わんなど、大変具体的で生活に結びついておりまして、場面ごとに身につけてほしい道徳的なマナーやルールを理解しやすいと思いました。また、今後よりよい生活と将来的な自立のためのベースとなるスキルを小学校の低学年の児童が楽しんで学ぶことができるというふうに思いました。

一方、同じ「ルールとマナーを学ぶ子ども生活図鑑」の地域・社会生活編は、生活・地図・社会のほうで申請が挙がっております。近くに出かける、電車に乗る、飛行機に乗るなどの場面から、子どもたちが地域や社会の一員として生活することを意識づけることができると思えます。また、図書館、映画館、駅などを自分の住んでいる地域に当てはめて考えることができますので、地図を使ったり、地域学習をしたり、社会科見学等の社会科の学習に活用できると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかある方はお願いいたします。

佐々木委員　それでは、生活・地図・社会の11番「あたまと心で考えよう SSTワークシート社会的行動編」についてですけれども、こちらのほうはワークシート形式になっていまして、こんな場合にはどう言ったらいいのか、どうすればよかったのか。例えば、「順番を決めよう」という部分では、なぜ順番を決めるのか、順番がないとどうなるのか、順番を決めるとどんないいことがあるのかということを担当、大人とやり取りをしながら、考え、学習を進めることができると思います。友達とうまく関わることですとか、それから、みんなと一緒に何かを進めるためにどうしたらよいかということを考えることができるという観点から、生活・地図・社会で活用できると考えます。

以上です。

委員長　ありがとうございます。そのほか。

窪島委員　自分からは、先ほどの柴山委員ともちょっとかぶるんですけれども、ナンバー2の「社会科常識シリーズNew日本列島ジグソー」、それから、ナンバー4「生活図鑑カードのりものカード」、それから、ナンバー8の「くださいな！コンビニあそびレジスター」、そして、生活・理科との複数採択種目でもあるナンバー9の「チャイルドブックこども百科くらしとぎょうじのせいかつ図鑑」、この4つについて話をさせてください。

まず、ナンバー2の「社会科常識シリーズNew日本列島ジグソー」ですけれども、これは先ほどのお話にもありましたけれども、一言で言ってしまえば、日本列島の都道府県のジグソーパズルの形になっています。パズルであることから、全国の都道府県の名前や形、位置、そして県庁所在地などが遊びながら覚えられるようになっていきます。ちょっと情報量が多過ぎるかなという気もしないでもないんですけれども、でも、都道府県の形と位置を覚えるには、目と手で確認していくことができるの

で非常に効果的ではないかなというふうに思いました。

次に、ナンバー４の「生活図鑑カードのりものカード」ですけれども、これはカードの裏に自動車とかタクシーとか書いてあるので、それぞれの乗り物の名前を覚えたり、そして読んでいって行く中で、自然と文字に触れることができるのだろうなというふうに思います。また、カードの裏には、その乗り物の仕組みとか歴史なども書いてあって、知識を広げるにもとてもいいのではないかなというふうに思いました。

続いて、ナンバー８の「くださいな！コンビニあそびレジスター」についてです。これは一言で言っちゃえば、おもちゃ絵本で、コンビニごっこが楽しめるような作りになっているんですけれども、授業で買物体験をする前に、校内で意識づけのために使ったり、また品物を買うときに幾らのお金を用意すればいいかというようなことが計算するためには役立つのだろうなというふうに思います。ごっこ遊びが好きな児童には、これもたまらないだろうなというふうに思いました。

最後に、生活・理科との複数採択種目、ナンバー９の「チャイルドブックこども百科くらしとぎょうじのせいかつ図鑑」についてですけれども、イラストや写真がたくさん使われていて、挨拶や食事のマナーとか、掃除やトイレなどの生活の中の身近なテーマが結構取り上げられています。３部構成になっているので、生活全般のほか、平仮名や片仮名、漢字の成り立ちなども載っているのです、この本の使い方次第になるのですけれども、国語や書写にも利用できるのではないかなというふうに思いました。

以上になります。

委員長 ありがとうございます。そのほかご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

私は、山田委員からもありましたNo. 3、生活・社会・地図の3番、学研の「なぜ僕らは働くのか」という本についてお話しさせていただきます。

「仕事ってなんだ？」から始まり、「どうやって生きる？」、そして「好きを仕事にする？ 仕事を好きに？」という3章の構成から成っています。この各章の間には、実際に働いている方々の「あなたの仕事はどんな仕事ですか。」、「あなたは何のために働いていますか」、「あなたの夢はいつ見つかりましたか」という声が入っております。また、なぜ働くのか、なぜ勉強するのかと子どもに聞かれたときに、頭の中では理解していても、言葉でうまく答えられない、子どもからの質問に対しても、一緒に子どもと考え、自分なりの答えを探すためのヒントがたくさん詰まっていました。これらの内容を文字だけではなくイラストと漫画が多く使われていて、大変読みやすく、分かりやすい構成になっていました。特に、本は苦手だけれども、漫画は好きという子どもには、あっという間に読めて、しっかり頭に入ってくるだろうなというふうに感じました。

我が家には、大学1年生の娘と中学校3年生の娘がおりますが、高校受験を控えている中3の娘は、何でみんな学校に行くんだろうとか、大学生の娘は、ずっと学生でいたい、どうして働くんだろうというのを最近口にします。世代的なものなのか、もしくは時代的なものなのか分かりませんが、自分が子どものときには、何で働くんだろうなんて疑問を持ったことがなく、学校を卒業したら働くことが当たり前というふうに思っていたんですが、そう思うと、時代的なものなのか、多様性というものが大いに尊重される世の中になっているんだろうなというふうに感じました。

そして、不登校経験のある人のライフスタイルも載っており、学校に行かなくても生きていく道はあるというふうになっているんですが、そこでは終わっておらず、学校に行かない時間も

大切な時間、その大切な時間を有意義に過ごすという具体的な説明も記されておりました。

就職したらそこがゴールではないというところから、子どもたちにはもちろんですが、この先、自分も何度も読み返せる本だなというふうに思い、早速、自宅用に購入いたしました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかご意見のある方はお願いします。

平林委員 私は、No. 4 の生活・理科の 9 番「小学館の図鑑NEOの科学絵本宇宙探検えほん」と 3 番の「学研の図鑑LIVE(ライブ)地球」、それから、8 番の「小学館の図鑑NEO野菜と果物」について述べさせていただきます。

9 番の「小学館の図鑑NEOの科学絵本宇宙探検えほん」は、ところどころに、タブレットのカメラを向けると動画や 3 D C G が見られるような仕組みが掲載されており、子どもたちが視覚的に学べるような配慮がされています。大学生が学ぶような専門的な内容も掲載されていて、地球科学に興味のある子どもたちのもっと学びたいという意欲が高められると思います。また地球温暖化、大気汚染、砂漠化などの地球規模の課題も掲載されていて、子どもたちなりの意識を高めたり、行動の変容の動機づけにもつながると思います。

3 番の「学研の図鑑LIVE(ライブ)地球」は、附属のDVDでオーロラやいろいろな気象現象の動画などを見られるようになっていて、より子どもの興味関心を高められるように配慮されていると思います。

8 番「小学館の図鑑NEO野菜と果物」は、「やってみようコラム」や「ものしりコラム」の関連情報は、学習の動機づけにもなると思います。また、学校での栽培方法がイラスト入りで詳

しく掲載されており、すぐに活用できると思います。食育用の教材としても効果が期待できます。ニンジンの花やキャベツの花など、植物として見たときの野菜の写真があり、教師も興味深く学べると思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかございますでしょうか。

藤内委員 同じく生活・理科の5番「めくって学べるからだのしくみ図鑑」について述べさせていただきます。

この本は、体の仕組みについて、大きな仕掛けイラストや詳しい解説と分かりやすい図で、子どもの「なぜ?」「どうして?」に丁寧に答えてくれる図鑑となっています。大きな体のイラストは、気になったところを感覚的に指でめくって確かめることができ、さらに知りたいと思ったときには、その先に大変詳しい説明が3Dイラスト、写真とともに書かれています。人間の体に対して関心を高め、疑問に思ったことを追求する力をつけるのに適していると感じました。また、この本は保健体育の1番としても希望が上がっている本ですが、健康や病気についても学習意欲を高めながら学ぶのに適していると考えました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかございますか。

平林委員 藤内委員がめくって学べるというところで、私から10番の「動く写真で見る野生動物の世界しかけえほんサファリ」について述べさせていただきます。

写真を自分の興味関心によって、速くも遅くも動かすことができ、目と手の協応の発達に寄与するとともに、動物の生態についての子どもたちの気づきを促すことができると思いま

す。難点は、やや価格が高価であることと、一緒についている文章の文字がやや小さいなと感じました。内容は専門的で、大人とともに学ぶことができると思います。

以上です。

委員長 ほかにご意見ある方。

藤内委員 生活・理科の1番「なぞなぞあなあきえほん6たべものかくれんぼ」についてですが、この本は子どもが興味を持ちそうな食べ物についてのなぞなぞ、その答えのヒントが穴の中に見えるような作りになっていて、穴の向こうにある食べ物について考え、わくわくしながらページをめくることで、食べ物への関心が高まり、また、知っている食べ物が増えることで、食に関する安心感の高まりも期待できます。低学年の児童が楽しみながら学習することができる絵本であると思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかございますか。

繁里委員 私は、生活・理科、④「学研の幼児ワーク3～4歳こうさく」と6番の「こうさく3はじめてのかみこうさく2集」について意見を述べさせていただきます。

いずれのワークも、はさみとのりを使って、切る、折る、貼るといった作業で紙工作を作ります。単純な作業のように聞こえますが、細かい作業や複雑な作業など集中力や手先の器用さがより求められるものもあり、難易度に幅があります。このため、毎回新鮮な気持ちで自分に合ったものを選びながら意欲的に授業に取り組めると思います。

2つとも、今回は図工から生活・理科の種目替えの使用として挙げられておりますが、作り方の説明を読んだり、理科の教

材を作ったり、組み立てたりすることに通ずるところも多いのではないかと思いました。

以上です。

委員長 そのほかございますか。

平林委員 私は、生活・理科の12番の「でんじろう先生のおもしろ科学実験室2ふしぎ実験」について述べさせていただきます。

安全、簡単、安価な材料でできる実験手順が写真つきで子どもたちにも分かりやすく解説されています。理科的な解説もあって、大人にも勉強になります。実験のまとめ方の解説もあり、遊びで終わらせないような配慮もされていると思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見のある方はお願いします。

山田委員 私からは、図工・美術のナンバー3「こどもの図鑑Mio1むし」について述べさせていただきます。

この本は、虫の暮らしやその仲間を写真とイラストで詳しく解説しています。「カブト・クワガタをさがせ大作戦」など、子どもたちの興味と関心を引き出す内容が満載です。工作や折り紙、絵画の参考図書として適していると思います。

次に、ナンバー4の「色えんぴつでイラスト12色ではじめる色あそび」について述べさせていただきます。この本は、色を楽しむことにこだわり、色鉛筆でイラストを楽しく描けるようになります。色数を絞った簡単でかわいいイラストから始めて、色鉛筆と仲よくなりながら、次第に気になるモチーフを描くための色選びも分かり、どの発達段階においても粘り強く作業に取り組めると感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほか。

平林委員 私は、図工・美術領域の1番と2番「小学館の図鑑NEOのクラフトぶっく」について述べさせていただきます。

はさみを使わず、手で抜けるミシン目入りで、子どもたちにも簡単に抜くことができます。のりも極力使わない仕組みでありながらもリアルな仕上がりなので、クラフトを作りながら、魚や商用車の知識も身につきます。また、出来上がった後に達成感を得られます。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかございますか。

越委員 No. 5、音楽・器楽の2番の東京書店の「わくわく音あそびえほん新装版ドンドコドンドンたいこであそぼ」と8番の三起商
行の「ポカポカフレンズのおんがくえほんピアノ」についてお話しさせていただきます。

指で触って音が出て、一緒に歌ったり踊ったりできる本は、子どもにとっては大変魅力的なものだと思っております。以前は音を押すと曲が流れる本が主流でしたが、最近は、音に合わせてピアノを弾けたり、太鼓をたたくことができる体験型の本がたくさん出ております。

朝日新聞社の「光る★音でる♪知育絵本リズムにのってぽんぽんたいこ」の本では、録音した声が、例えば先生や保護者の方の音が太鼓の音になるという点が大変いいと思いました。

三起商行の「ポカポカフレンズのおんがくえほんのピアノ」のほうでは、光る鍵盤で興味を引き、曲のテンポまでが変えられます。そういったことから、童謡や音楽を親しむきっかけに

なる大変いい絵本だというふうに感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかご意見のある方はお願いします。
ます。

小澤委員 音楽の種目で、3者についてお話をさせていただきます。

音楽の4番、コスミック社の「いっばいうたおう！どうようえほん」と5番、新星出版社の「おとのでるえほんたのしいてあそびうた」、それから、7番、ベネッセ「しまじろうの歌えほんしまじろうどうようえほん」についてお話しをさせていただきます。

3者とも、童謡として知られている曲がたくさん収録されていました。モジュールつきで、ボタンを押すとスピーカーから楽しい歌が流れる絵本になっています。歌のお手本入りバージョンとかカラオケバージョンの2通りで収録されていたり、音の強弱ボタンもついていて、使い勝手がいいように工夫されているなと思いました。歌詞とイメージイラストを掲載して、手遊びの説明が丁寧に紹介されています。それから、五感を刺激するまねっこ遊びの歌とか、音感、リズム感を育むことができる内容だと感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございました。そのほかご意見のある方。

藤内委員 音楽・器楽についてお話をさせていただきます。

先ほど2番の「ドンドコドンドンたいこであそぼ」のお話もあって、これもとってもいろんな音があってすてきだなと思ったんですけども、私のほうからは3番の「光る★音でる♪知育絵本リズムにのってぽんぽんたいこ」、こちらは、ばちを使わ

ないで、手でポンポンとたたくことで音を鳴らすことができます。音楽に合わせて感覚的に手で太鼓をたたくことで、よりリズムを体感できるのではないかと考えました。入っている曲も、体を動かしながら楽しめるような曲になっています。

それから、ピアノの本で、さっきは8番「ポカポカフレンズ」のお話があったんですけれども、私のほうから、6番の「たまひよ楽器あそび絵本すてきなピアノえほんDX」、こちらもピアノの本なのですが、メロディーを流して楽譜を見ながら弾いてみたり、いろんな遊び方ができるようになっていて、特にピアノや鉄琴の音が選べるだけではなくて、ドレミモードにすると、鍵盤を押すと、ドレミとドとかレとか、そういった形で音が鳴るようになっています。楽譜のドレミと合わせて楽しく弾くことができます。たくさん曲が入っていて、速さも調節できるので、自分のペースで学習を進められると感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかございますか。

澤野委員 越委員、藤内委員も少しおっしゃっていましたが、私も音楽の2番「わくわく音あそびえほん新装版ドンドコドンドンたいこであそぼ」について述べたいと思います。

まず、開いた途端、やってみたいというふうに思わせる1冊です。太鼓などの打楽器は、例えば音色を奏でる鍵盤楽器等に比べますと、様々な発達段階の子どもたちが楽しむことができます。右手と左手を別々に動かすことが難しいという子でも、付属のばちを使って楽しみながら太鼓をたたく経験になります。本の指示どおりにたたくことができるようになったら、自分で工夫しながら、たたいていくというような発展的な学習にもつながると思います。採用されている童謡ですとかアニメソングも、今の子どもたちに合っているなというふうに感じまし

た。多くの子どもが発達段階に応じた学習を行うことができますので、教科用図書としてふさわしいと思いました。

以上です。

委員長 そのほかご意見のある方はお願いします。

宮崎委員 音楽の1番「歌でおぼえる手話ソングブック」について述べさせていただきます。

イラストと解説が大変分かりやすく、指導に当たる大人もとても活用しやすいと思いました。子どもたちと一緒に手話で歌いながら、自然に手話に親しむことができます。また手話であれば、発語がちょっと難しいお子さんにとっても、手や体を動かしながら音楽を楽しむことができます。全部オリジナルソングであるので、日常によく使われる手話表現が繰り返されていて、歌いながら覚えて、すぐに使えるように工夫されているというふうに思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかご意見のある方はお願いいたします。

各委員 なし。

委員長 よろしいでしょうか。

それでは、ここで10分間ほど休憩を取りたいと思います。事務局よりご連絡をお願いいたします。

事務局 それでは、傍聴者の皆様にご連絡いたします。傍聴者の皆様は、後ろの扉を出たところにあるお手洗いをご利用ください。14時27分までが休憩となりますので、24分にはお席に戻

るようによろしくお願いいたします。

それでは、休憩といたします。

午後 2 時 1 6 分 休憩

午後 2 時 2 6 分 再開

委員長

それでは、審議を再開させていただきます。

最後に、No. 7 の家庭・職業家庭のところから、一番最後、No. 10 の道徳の教科領域で申請が上がっております 29 冊の図書についてご意見をお伺いしたいと思います。先ほどの教科領域で申請されている図書も含まれておりますが、加えてご意見等がございましたら、よろしくお願いいたします。

では、ご意見のある方は挙手をお願いいたします。

窪島委員

自分は、No. 10 の道徳の中のナンバー 14 「こころのふしぎなぜ？ どうして？」 とナンバー 15 「ともだちのつくりかた」についてお話しさせていただきたいと思います。

まず、14 の「こころのふしぎなぜ？ どうして？」についてです。心って何だろうと考えてみても、なかなか僕も答えは見つからないんですけれども、でも、誰もが持っているもの、大切なもの、人の気持ちや願い、思いといったものを考えてみるきっかけになる本なのかなというふうに思います。誰もが自分を振り返ってみるよいきっかけになるんじゃないかなというふうに思いました。

次に、ナンバー 15 の「ともだちのつくりかた」についてなんですけれども、友だちってどうやってつくるのって、これも答えるのは簡単じゃないんだろうなというふうに思うんですね。子どもたちにとっては、入学のときであるとか、それからクラス替えがあるときに、人間関係で最初の試練、一大事と言えるのがこの友だちづくりなのかなと思うのですが、この本の

巻末には、書き込みができるワークシートがついています。そして、自分のことを振り返る、どうやったら誰かと友だちになれるかとか、人間関係の基本的なルールなどがゲームのように楽しみながら学べるようになっていきます。友だちは一生の財産です。この教科書をきっかけにして、よい友達がたくさんつくれるとよいなというふうに思いました。

以上です。

委員長 そのほかご意見のある方はお願いします。

楯委員 私もNo. 10、道徳の2番と3番、それから生活・地図・社会の領域の1番でも上がっている旺文社の「学校では教えてくれない大切なこと」シリーズで、「(12) ネットのルール」、「(9) ルールとマナー」、「(16) 考える力の育て方」の3冊についてまとめて述べさせていただきます。

この3冊は、生活の教科領域の観点から考えても、楽しい漫画を継続して読みながら、社会生活に必要なルールやマナーの知識を身につけることができますと思います。例えばネガティブに捉えやすい情報モラルや生活のルールについてですが、漫画を読むと、その具体的な場面が想像しやすく、分かりやすく説明されており、この本を読むことで自然と情報モラルや社会生活のルールやマナーの知識を身につけることが期待できます。また、「(16) 考える力の育て方」では、悩み、葛藤しながらも納得解を自分自身が生み出していく大切さを登場人物が理解していく、そんな姿から、深く考えることが不得意な子どもたちでも、道徳の授業で身につけたい考える力を育むことも期待できるのではないかと思います。

以上です。

委員長 そのほかご意見のある方はお願いします。

小澤委員　　私は、道徳の種目として3者についてお話をさせていただきます。

4番の偕成社、「日本の絵本いちばんはじめのマナーえほん」については、1つのマナーのタイトルに対して複数の場面を提示して、効率よくその場面での振る舞いが分かるように構成されていました。

それから、12番の小学館の「マンガでわかるよのなかのルール」、これは本のタイトルにあるように、マナーよりもルールに寄った内容になっているなど感じましたが、タイトルどおりなんです、見開き2ページで、左のページには分かりやすく場面の違った4コマ漫画を2つ載せて、理解が深まるように工夫されていました。

それから、16番の日本図書の「おやくそくえほんはじめの『よのなかルールブック』」も、これも見開き2ページで構成されていましたが、文字の量とか配置がシンプルというか見やすくなるように構成されていて、分かりやすいなど感じました。
以上です。

委員長　　ありがとうございます。そのほかご意見のある方はお願いします。

宮崎委員　　道徳の5番「こどもせいかつ百科」ですが、具体的な表現とイラストで日常生活に必要な動作について、どんな道具を使って、どのように指先を動かして、そして、支援者がどのように働きかけていけばよいかということを変分りやすく紹介しています。「かさをさそう」などの動作を実践しながら、マナーやルールを身につけ、生活場面と道徳的な学びを結びつけて習得することができると思います。また、児童がこれならやってみようという意欲、そして、やってみたらできたという達成感

を持つことができ、将来的な自立につながると思いました。

もう1点、道徳の10番「かおノート2」ですけれども、こちらは自分や相手の気持ちを考えるのに大変適しています。クッキーの写真、ピーマン、湯飲み、テニスボールなど、様々な土台に、目、鼻、口、ひげなどのパーツのシールを自分で貼っていくという過程で、これはうれしい顔、笑った顔、困った顔、照れた顔などのいろいろな顔があることや、そこから表情を読み取ったり、相手の気持ちなどに気づいたり、想像したりする力を養って、人との関わり方、あるいはコミュニケーションを豊かにする効果があると思いました。

以上です。

委員長 そのほかご意見のある方はお願いします。

佐々木委員 それでは、道徳のところ、私から4冊についてお話をさせていただきます。

まず、1番の「マナーと敬語完全マスター！3町のマナーと敬語」についてですけれども、イラストや吹き出しから、その場面にふさわしくないマナーを見つけるという構成になっています。ただ、ふさわしくないものだけではなくて、よい部分、ここでは「あっぱれマナー」と名づけられていましたけれども、それを見つけることも課題として取り組むことができるようになっていきます。いろいろな場面を想定しながらのやり取りを通して、どのような行動や言動がふさわしいかを楽しく学ぶことができるのではないかなというふうに思います。

それから、7番の「イラスト版子どものソーシャルスキル友だち関係に勇気と自信がつく42のメソッド」は、自分の思いをどのように伝えたらよいのかを学んでいくことができます。自分を見つめたり、友だちと関わるきっかけを見つけたり、友だちに自分の思いを伝える方法を、担任とやり取りをしたり、

ほかの児童とロールプレイをしたりして学ぶことができると思います。

それから、8番の「イラスト版コミュニケーション図鑑」は、子どもにとって身近である様々な場面が取り上げられています。その場面でどのようにコミュニケーションを取ればいいのかイラストとともに掲載されています。場面ごとのテーマが豊富なので、子どもの抱えている課題に沿って取り組むことができるのではないかと思います。場面ごとに大人とやり取りをしたり、ロールプレイをしながら、多様な学習形態も考えられます。その中で、話す力や聞く力、話し合う力を伸ばしていくことが期待できると思います。

最後に、13番の「あたまと心で考えようSSTワークシート自己認知・コミュニケーションスキル編」についてです。先ほど生活・地図・社会のところで話をしました「あたまと心で考えようSSTワークシート社会行動編」と同様に、ワークシート形式になっています。自分自身を見つめながら、相手との関わり方について、担任とやり取りをしながら学習を進めていくことで、集団や学校生活の中で望ましい関わり方を繰り返し学ぶことができる本だと考えます。

以上です。

委員長 ありがとうございます。では、そのほかご意見のある方はお願いいたします。

岡村委員 私は、No. 10の道徳の中から2冊についてお話をさせていただきます。

私も、まず4番の「日本の絵本いちばんはじめのマナーえほん」についてですが、子どもの毎日の生活習慣と日常の大切なマナーがイラストで分かりやすく紹介されていて、子どもと周りの大人とで一緒に学んでいけると思いました。自分で身につ

けていく習慣やマナー、お友だちや人との関わり方も身につけていけるような教材だと感じました。

次に、5番の「こどもせいかつ百科」についてですが、生活の基本を身につけられるように、順を追って丁寧にイラストで説明されているので視覚的にも分かりやすく、本文は平仮名と片仮名が大きめに書かれているので、文字も読みやすい工夫がされていると思いました。項目がたくさんあり、長く自立に向けて取り組める教材だと思います。

以上です。

委員長 ありがとうございました。そのほかございますでしょうか。

越委員 No. 9の英語、4番の「小学生の英語絵ずかん〈しゃべるペン付き〉」についてお話しさせていただきます。

低学年、中学年、高学年の学年層で分けられていて、子どもの成長に合わせた場面の設定と単語が選別されています。また、単語だけではなく、大人が子どもに話しかけるときの表現や答えるときの表現も記載されていて、幅広く学べる本だなというふうに感じました。そして、付属のしゃべるペンでタッチをすると、発音、会話を聞くことができます。英語は好きだけれども、単語をあまり理解していない子どもでも自主的に単語の学習ができ、学習をする意欲が出てくる1冊だなというふうに感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかご意見のある方はお願いします。

藤内委員 No. 7、家庭・職業家庭の4番「料理はすごい！シェフが先生！小学生から使える、子どものためのはじめての料理本」につい

て述べさせていただきます。

この本は誰が見ても分かりやすい作りになっており、説明の漢字には全てルビがついています。また、調理の手順が見開き1ページにまとまっており、完成までの見通しが持ちやすい作りとなっています。調理に慣れていない生徒でも、基本の道具の使い方や作り方のポイント、工程写真が示されていて、教師と一緒に調理するとしても、生徒が主体となって実習を進められるような本になっていると考えます。

以上です。

委員長 そのほかご意見のある方はお願いいたします。

佐々木委員 それでは、同じく家庭・職業家庭のところから3冊について話をさせていただきます。

まず、2番の「こどもりょうりのことば絵じてん」は、食事の重要性、マナー、準備や片づけに関わること、道具の使い方や食材、料理について、多くのイラストとともに示されています。食に興味を持ち、大人とのやり取りをしながら、自分にできそうなことを考えてみたり、調理実習をしたり、買物学習の事前準備に活用したりすることもできると思います。学校での学習にはもちろんのこと、家庭での生活、お手伝い等、考える場面等にも生かされるのではないかなと思います。

次に、3番の「小学館の図鑑NEOまどあけずかんたべもの」です。食べ物について、食材や食べる場所、場面、お店にはどのような商品が置いてあるのか、メニュー、仕組みが学べるようになっています。例えば、「なかみ」というページでは、仕掛けをめくることによって、その食べ物の中身がどうなっているのかを知ることができます。興味を持って学べるようになっていると思います。また、めくるという動作が繰り返されるようになっていて、指先を上手に使う練習にもつながると考えます。

最後に、1番の「イラスト版子どものアンガーマネジメント 怒りをコントロールする43のスキル」についてです。家族とよりよい関係を築くことや地域との関わりを深めていく上で、自分の感情をどのようにコントロールしていくのかということは大切なことだと思います。この本は、自分の怒りについて理解、具体的な場面でどのように対応したらよいのかなどを大人とのやり取りをしながら学習を進めることができるようになっていきます。これまで道徳での採択でもありましたけれども、社会の一員として、様々な生活の場面で生かせるので、家庭・職業家庭での活用もできると考えます。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかご意見のある方はお願いいたします。

澤野委員 私も家庭・職業家庭の3番「小学校の図鑑NEOまどあけずかんたべもの」についてお話ししたいと思います。

身近な食べ物を扱っているので、子どもの興味を引きやすいのがよいというふうに思いました。とにかくたくさん窓があります。佐々木委員もおっしゃったように、指先を使って全ての窓を開けるということも学びですし、めくったら、そこにどんなことが書かれているのかなということを想像するというのも、また学びになると思います。場面や場所のイラストは親しみやすく、かわいらしいものなんですけれども、食べ物のページは写実的に描かれ、バックの色は1色になっています。説明文も最小限に抑えてあるので、イラストに集中しやすい作りになっているのもよいと思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかございますでしょうか。

山田委員 私からは、No. 8、体育・保健体育のナンバー3「ちょうしんきつきからだのずかん」について述べさせていただきます。

この本は、聴診器つきの子ども向け絵本です。ポップアップ式の仕掛け絵本と聴診器で体の様々な名前、仕組みを楽しく学習できます。ポップアップはめくる楽しみがあり、何が出てくるのかわくわくします。ごっこ遊びが好きな児童が聴診器を使って体の名前や仕組みについて楽しく興味を持って学べるため、体育・保健体育の学習に適していると思います。

以上です。

委員長 ほかにご意見のある方はお願いいたします。

佐々木委員 では、私も体育・保健体育の2番「自立生活ハンドブック4からだ！！げんき！？」について話をさせていただきます。

この本は、体の仕組みについてイラストで示されております。また、生活習慣病や心の不調、病気などにも触れられていることで、自分自身の体や病気について興味深く学ぶことができるようになっていきます。指導者とのやり取りをしながら、自分の体の大切さについて学んでいくことができると考えます。これまで理科で採択をされていたところですが、保健に関する内容も充実しており、体育・保健体育での活用もできると思います。

以上です。

委員長 そのほかご意見のある方はお願いいたします。

澤野委員 私も体育・保健体育の2番「自立生活ハンドブック4からだ！！げんき！？」について意見を述べさせていただきます。

子どもたちが健康的な生活を送るためには、体づくりや体力づくりが大切です。健康な体づくりの基礎となるものに食事が

あります。特に特別支援学校や特別支援学級には、偏食のある子どもや口の中の感覚が過敏なために食事に課題があるという子が少なくありません。苦手なものにもチャレンジして食事をしっかり取ることが生活習慣病などの病気の予防につながるということが学べる1冊です。少し難しい内容かなとも感じたんですが、イラストや手書きの文字で親しみやすくしていることと、それから白黒の2色刷りで見やすいというのがよいというふうに思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかご意見ある方はいらっしゃいますか。

柴山委員 No. 7、家庭・職業家庭の1「イラスト版子どものアンガーマネジメント怒りをコントロールする43のスキル」について述べさせていただきます。

自分の感情をコントロールするのは大人になっても難しいなと感じますが、怒りのコントロールをいろいろな事例を踏まえて自分でどのように対応したらよいか、また、どのように捉えたらよいか、考えることができ、佐々木委員もおっしゃっていましたが、今後、社会に出る上でとても必要なスキルだなと感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかご意見のある方はお願いいたします。

大石委員 それでは、英語の種目で3つについてお話をさせていただきます。

まず、英語のナンバー2「エリック・カールのえいごがいつ

ぱい」について意見を述べさせていただきます。

こちらは生活・理科のナンバー2でも希望が挙がっているものになります。この本は、エリック・カールの鮮やかな色彩のイラストとともに、生き物、食べ物、乗り物などたくさんの身近な英単語を扱っていて、まず、子どもの興味を引くと思えました。また、カテゴリーごとに単語がまとめられていて、子どもが単語を関連づけながら理解しやすい作りになっていると感じました。特に生き物については、動物や鳥だけでなく、虫や海の生き物など、たくさんの英単語を掲載しておりまして、理科や生活科の学習にも適していると考えます。また、子どもに人気の「はらぺこあおむし」を出版しているエリック・カールの絵を用いることで、いろいろな生き物を身近に感じ、関心を持つようになるのではないかと思います。

次に、英語のナンバー3「めくりしかけえほんたのしいabcのえほん」とナンバー5の「はじめてのさがしておぼえるえいごのことば」についてお話をさせていただきます。

「めくりしかけえほんたのしいabcのえほん」は、アルファベットの文字や子どもにとって身近な英単語を文字や絵をめくりながらクイズ感覚で学習できるため、子どもの興味を引くとともに、楽しみながら取り組めると思いました。また、絵と単語の頭文字のアルファベットの音が関連づけながら提示されているため、文字と音との関係にも気づいて学習を深めていくことが期待できます。

そして「はじめてのさがしておぼえるえいごのことば」ですけれども、身近な場所や物、シーンがイラストとともにカテゴリーごとに分かれて提示されているため、整理をしながら学習を進めやすいと感じました。さらに掲載されている単語の量が多く、二次元コードを読み取ることで、実際にネイティブな発音も確認できるため、英語に興味関心が高い子どもにとってはより意欲を持って取り組めると思います。

委員長 ありがとうございます。そのほかご意見のある方。

澤野委員 先ほど大石委員もおっしゃっていましたが、私も英語の2「エリック・カールの絵本エリック・カールのえいごがいっぱい」についてお話しさせていただきます。

子どもたちはエリック・カールの絵本が大好きです。ところどころに「はらぺこあおむし」が登場しているのも、この本の魅力の一つです。青虫はキャタピラーっていうんだねなんていうふうに、大人と一緒に単語を発音しながら、どんどんページをめくりたくなるような本です。発達段階によっては、まず日本語の単語を覚えることから始めてもよいと思います。楽しみながら英語に親しむことができるこの本は、教科用図書にふさわしいと感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

山下委員 私もNo. 9、英語の分野のところから、1番の「ペンがおしゃべり！ベビー&キッズえいご絵じてん500新装三訂版」と、そして、4番、東京書籍「小学生の英語絵ずかん〈しゃべるペン付き〉」についてお話しさせていただきたいと思います。

1番の旺文社「ペンがおしゃべり！ベビー&キッズえいご絵じてん」は、指定のペンで絵や文字をタッチするだけで、その音声の本から流れてくる仕組みの本、さつき越委員もそのようなお話しをしてくださったかと思いますが、ペンが普通のペンではなく、ちょっと太くて重いのですが、音が出るのが楽しいものですから、タッチペンを持つこと、押すことという動作が難なくできるというか、手や指の操作機能を高めることにもつながる、そういうお子さんもいらっしゃるのではないかなと

思います。また、ソングブックもついておりまして、「森のくまさん」などの耳慣れた音楽を英語で歌うようにできる、そういうことも魅力の一つかなというふうに思います。

また、4番の東京書籍「小学生の英語絵ずかん」も、しゃべるペんで絵や文字をタッチすることで音声が出てくる本となっております。日常の生活に即した内容となっております。例えば、朝、学校に登校して、夕方、帰って、家でゆっくりするまでの1日の流れであったり、また、校外学習や行事など身の回りのことを表現できるように工夫されています。こちらも音が出る楽しさから、自主的に楽しく学ぶことができるのではないかなと思います。

また、1番も4番もそうなのですが、どちらも意図を持って英語を片仮名で表記しないとしております。なので、文字からではなくて、イラストと音声から英語を学ぶことができるのではないかと考えます。高価、ちょっと高いお値段ではあるかなと思いますが、卒業した後も長く自宅で主体的に学習できるのではないかなと考えます。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そのほかご意見のある方はいらっしゃいますか。

各委員 なし。

委員長 よろしいでしょうか。

では、No. 10の最後まで行きました。ありがとうございます。ここまで一般図書につきまして皆様の意見を伺ってまいりましたが、子どもの実態や発達段階に応じて幅広く一般図書の採択が可能となりますように、昨年度まで採択されている一般図書は、「●」の発行者による供給が困難になった図書を除いて

引き続き使用できること、今回審議を行った教科用図書として使用したいと考えている新規図書や複数種目で希望のある一般図書は、いずれも適切であることということによろしいでしょうか。

各委員 はい。

委員長 ありがとうございます。それでは、ほかにご意見がないようですので、議題1「令和7年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」の審議につきましてはここまでとしたいと思います。

続きまして、議題2「令和7年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」の審議を行いたいと思います。

前回、つまり令和2年度に行われました中学校の採択替えの答申については、各議題の審議結果をまとめた審議のまとめを作成し、会議録を添付資料としておりました。今回の答申をどのような形にするか、ご意見がある方はお願いしたいと思います。どなたかありますでしょうか。

大石委員 前回の審議結果のまとめを拝見させていただいたんですけれども、とても分かりやすいと思いました。前回と同様、審議をまとめたものを答申とする形がよいと思います。

委員長 ありがとうございます。そのほかご意見のある方。

平林委員 答申は、審議の結果が分かりやすく示されることが大切だと思います。私も同様に、審議をまとめたものを答申とし、参考として会議録を添付するのがよいと思います。

委員長 ありがとうございます。そのほかよろしいでしょうか。

各委員 なし。

委員長 それでは、今お話しいただきましたように、答申につきましては、審議の内容をまとめたものを作成し、会議録については参考に添付するという方向でよろしいでしょうか。

各委員 はい。

委員長 それでは、答申については、2回目の中学校用教科用図書の審議、並びに3回目の特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用の教科用図書についての審議を審議の結果としてまとめ、答申するとともに、また資料として会議録を添付することといたします。

 改めて、議題2「令和7年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」確認いたします。

 1点目の第2回審議委員会における議題「令和7年度使用中学校教科用図書の審議について」は、審議してきた結果を種目ごとにまとめた資料を私のほうで作成しまして、それをもって答申とすること、また、審議の会議録を参考資料として添付して、答申とすることにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 また2点目といたしまして、本日の議題1「令和7年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」は、子どもの実態や発達段階に応じて幅広く一般図書の採択が可能となるように、昨年度まで採択されている一般図書は引き続き使用できること、今回審議を行った教科

用図書として使用したいと考えている新規図書や複数種目で希望のある一般図書はいずれも適切であることと考える旨を答申したいと考えておりますが、皆様いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 ありがとうございます。

なお、会議録につきましては添付資料としまして、私と署名委員の佐々木委員で確認をした後に答申するのようにしたいと思いますが、それも併せてよろしいでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 ありがとうございます。

では、ほかにご意見がある方がいらっしゃればお願いいたします。

各委員 なし。

委員長 よろしいですか。それでは、議題2についての審議も終了いたします。

以上で予定されていた議題に関する審議は終わりましたが、全体を通して皆様から何かご意見等あればお願いいたします。

各委員 なし。

委員長 よろしいですか。

事務局から何かあればお願いします。

事務局 ありがとうございます。それでは、今後の予定について説明

いたします。

事務局といたしましては、今後、本審議委員会の会議録を作成いたしまして、審議委員長に確認をいただきます。審議委員長におかれましては、ただいまの審議の結果を踏まえて答申を作成いただき、会議録を資料として添付し、委員長と署名委員の佐々木委員に確認をしていただきます。その後、審議委員長から教育長への答申を後日行うこととなりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

委員長

ありがとうございます。

それでは、これもちまして全ての審議を終了しましたので、第3回令和7年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。

この会議の結果の記載に相違ないことを、確認する。

署名委員